

## 2. 農業新技術の概要

### (1)リンゴ優良品種候補「HAC9」について

道立中央農業試験場 園芸部 果樹科

#### 1.はじめに

従来本道の栽培品種はいずれも導入品種のみで本道独自に育成されたものはなかった。そこで本道に適応度の高い食味の良いリンゴの新品種育成試験を昭和45年から実施し、今回、その最初の新品種を育成した。本系統は、昭和46年に「ふじ」を母、「つがる」を父として人工交配した実生個体数168より選抜育成したものである。昭和53年に初結実し、昭和55年に「HAC9」<sup>1)</sup>の系統名を付けて、試験を実施し本品種の優良性が認められた。

#### 2.特性の概要

樹勢は「ふじ」より強く、樹の大きさは「ふじ」より大きい。樹姿<sup>2)</sup>は「ふじ」より開張性である。枝しょうは「ふじ」より太く、葉は「ふじ」より大きく丸味を呈している。

発芽期から落花期に至るまでの生育相は、ほぼ「ふじ」と同様であるが、「スターキング」よりやや早く進む。果実の大きさは250g前後で「ふじ」より大きい。果形は長円形で「ふじ」より長めである。果皮色は赤色で「ふじ」より鮮明であり、縞状である。肉質は「ふじ」よりきめが細かい。果肉の色は黄色味の濃い黄白色であり、極めて多汁で、甘味多く、適度な酸味があり、食味は非常に良い。

熟期は10月下旬である。早期結実性を有し果実肥大も良好であり多収が見込まれる。適食期に入るのは「ふじ」より早く、可食期は11月初旬～2月末とみられる。早期落果<sup>3)</sup>、後期落果<sup>4)</sup>ともほとんどない。この点は「ふじ」と同様で「スターキング」より勝る。耐病虫性は、一般栽培において「ふじ」・「スターキング」と差がない。3倍体品種<sup>5)</sup>であり花粉の発芽率は極めて低い。

#### 3.普及態度

道央以南の地帯において栽培し、本道リンゴ産業の発展に寄与したい。(網走支庁管内については現在試験中)

本系統は樹勢が強く、樹姿が開張性で大きくなるので、栽植距離は「ふじ」より広めにする、花粉の発芽率が極めて低いので、他の受粉品種と混植栽培する。

表1.「HAC9」の特性概要

場所	系統と対象品種	生育相(月日)			1樹あたり収量					
					58年			59年		
		展葉期	開花期	満開期	果数	収量(kg)	一果重(g)	果数	収量(kg)	一果重(g)
中央農試	HAC9	5.12	5.28	6.2	101	21.4	239	216	54.4	252
					*(47)	(12.4)	(264)	(86)	(23.1)	(269)
	ふじ	5.13	5.29	6.2	52	12.5	241	57	11.3	192
道南農試	HAC9	5.19	6.2	6.6						
					*(125)	(39.4)	(315)	(237)	(66.5)	(281)
	ふじ	5.20	6.4	6.7				79	15.5	198

\*収量調査の( )内は高接ぎ

場所	系統と対象品種	果実品質			
		着色(0~10)	硬度(ポンド)	糖度(%)	酸度(g/100mL)
中央農試	HAC9	7.7	13.8	14.4	0.58
	ふじ	7.9	18.7	14.2	0.44
道南農試	HAC9	6.7	13.1	13	0.71
	ふじ	6.8	15.2	13.6	0.67

注 1)生育相：中央農試は57,59年の平均値。道南農試は59年の成績。

2)1樹当たり収量：「HAC9」=原木と(高接ぎ)の成績。「ふじ」=中央農試はM7台樹。道南農試はM26台樹の成績。

3)果実品質：中央農試は56~59年の平均値。道南農試は59年の成績。

- 1) 「HAC9」：HOKKAIDO APPLE CLONEの頭文字。9は系統番号。
- 2) 樹姿：樹全体を横からみた形状。「レッドスパーデリシャス」は直立形。「スターキング」は中間。「国光」は開張形。
- 3) 早期落果：落花後3～6週間に幼果の落果することで、品種によって発生程度に差がある。「スターキング」は早期落果を起こしやすい。
- 4) 後期落果：収穫期1か月前頃から収穫期にかけて落果することで、「旭」「つがる」「スターキング」は落果しやすい。
- 5) 3倍体品種：リンゴは普通2倍体であり、染色体数は34であるが、3倍体品種は染色体数が51である。父と母が2倍体の場合、その子も2倍体であるが、リンゴの場合、偶発的に3倍体を生じることがある。「むつ」「ジョナゴールド」は3倍体品種である。

---

[目次へ戻る](#)